

今日のキーワード 「街角景気」、世界的な株安が影響（日本）

「景気ウォッチャー調査」は、内閣府が毎月実施する景況感に関する調査で「街角景気」調査とも呼ばれます。タクシー運転手やコンビニエンスストアの店長、レストラン経営者など、景気に敏感な約2,000人が調査対象（ウォッチャー）です。3か月前と比べたその時点の景気と、2～3か月前の景気予測を調査します。算出された指数から好不況を判断する際の中立水準は、50ポイントです。

ポイント1

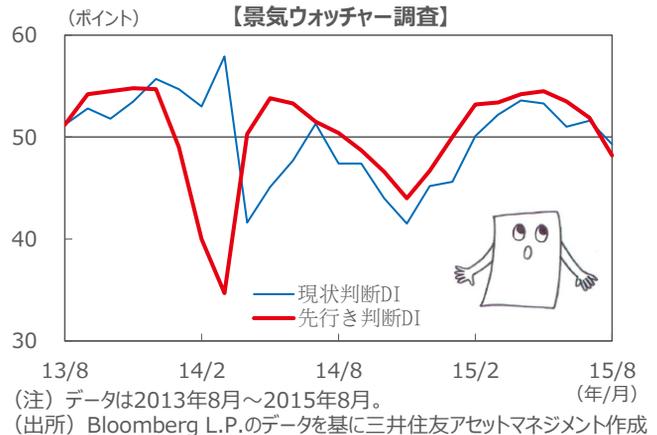
現状判断DIは7か月ぶりに中立を下回る 中国の景気減速懸念が影響

- 8月の「景気ウォッチャー調査」（調査期間8月25日～31日）は、「現状判断DI」が前月から2.3ポイント低下の49.3ポイントと7か月ぶりに中立の50ポイントを下回りました。中国の景気減速懸念から世界的な株安となり消費マインドが低下したと見られます。
- 街角の声には、「ここにきて中国の景気減速の影響か、株価が下がり、景気減速とまではいかないが、これまで伸びてきた勢いなくなり、停滞感が出てきた（南関東の商店街）」といった声が聞かれました。

ポイント2

先行き判断DIも8か月ぶりに中立を下回る 世界的な株安を不安視する声も

- 2～3か月前の見通しを示す「先行き判断DI」は、前月から3.7ポイント低下の48.2ポイントと8か月ぶりに中立の50ポイントを下回りました。「現状判断DI」と同様に世界的な株安が影響したと見られます。
- 街角の声には、「急激な世界株安が年末にどのように影響するのか未知数である。特に、インバウンド消費に急ブレーキがかかる可能性がある（南関東の家電量販店）」など、世界的な株安を不安視する声が聞かれました。



今後の展開

株式市場が落ち着くにつれ、賃金上昇が消費マインドを後押し

■ 株式市場が落ち着くにつれ、悪化に歯止め

今回の調査では、中国の景気減速懸念が強まり世界的に株安となった影響がうかがわれました。中国の景気は、景気対策の余地から大きな下振れは回避されると見られ、株式市場が落ち着くにつれ、さらなる景況感の悪化に歯止めがかかることが期待されます。

■ シルバーウィークでの消費支出増に期待

消費マインドは、賃金上昇に加え、ガソリンなど物価の落ち着きから、今後、改善が期待されます。また9月はシルバーウィークを控えており、行楽などサービスを中心に消費支出の増加が見込まれ、ウォッチャーの景況感が改善することが期待されます。

ここも チェック!

2015年 9月 7日 「実質賃金」が2年3か月ぶりにプラス（日本）
2015年 9月 3日 消費の新潮流は「極端」や「触感」（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。